

## 消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

### 【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	応急はしご救助訓練の際、隊員が2階階段から転落しそうになった。
3. 体験した事例の中心的要素	訓練塔2階階段踊り場を2階ベランダと仮定し応急はしご救助訓練を実施。隊員3名が三連梯子にて2階ベランダへ進入、要救助者へ簡易縛帯を縛着。救出のため要救助者の足部を抱え上げた隊員がバランスを崩し、階段に背を向けたまま落下しそうになり、さらに階段下側にいた安全管理員に支えられ事故に至らなかった。 ※応急はしご救助訓練とは、高所にいる要救助者を救助するため、救助ロープの先端に要救助者を縛着し、三連はしごの横さんに救助ロープの支持点をとって確保しながら安全に地上に救助する訓練。
4. 体験した事例の原因・理由	救出準備の際、要救助者だけに目が行き、活動隊員が階段に背を向け周囲の安全確認を怠ったため。

### 【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の実行に問題があった。(誤った手順を取った等)
------------------	---------------------------

### 【体験した事例について】

1. 発生日時	平成28年10月13日 午後3時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外: 訓練塔主塔階段
4. 体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させそうになった。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	重傷の怪我をしていた(させていた)だろう
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	墜落・転落
7. 事例体験時の活動	演習訓練、[ 救助(通常時) ]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	高所救助訓練
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[33]歳、勤続年数[3]年、現場経験年数[3]年、階級[消防士] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[30]歳、勤続年数[5]年、現場経験年数[5]年、階級[消防士] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [隊員]
○当事者C	年齢[25]歳、勤続年数[6]年、現場経験年数[6]年、階級[消防士] 同様の活動 [頻繁]、任務 [隊員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	当事者D指揮者(28歳、勤続6年、現場経験6年、消防副士長、同様の活動、頻繁) 当事者E安全管理員(34歳、勤続11年、現場経験8年、消防士長、同様の活動、頻繁)

11. 事例発生時の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A、B、D	三連梯子で訓練塔2階階段踊り場へ進入。	
経過2	当事者E	踊り場すぐ下の階段にて周囲の安全確認。	
経過3	当事者A、B	簡易縛帯で要救助者を縛着。	
経過4	当事者C	1階で救出ロープを保持し救出準備。	
経過5	当事者D	要救助者を救出準備のため、要救助者の抱え上げを指示。	
経過6	当事者A、B	要救助者の頭部側をAが、足部側をBが抱え上げ。	
経過7	当事者B	Bが下り階段に背を向ける形で、要救助者を抱え上げたところバランスを崩した。	
経過8	当事者E	踊り場下階段にいたEが、バランスを崩し落下しそうなBを支えた。	
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？
- ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

たまたま、事故にならなかった

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

狭隘な場所での起こりうる危険の認識が不十分であった。
----------------------------

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

「事例1」図面

